

2020 年度（対象年度：18～19 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 1	理念・目的
------	-------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	B
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 (2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的[0101a]は教育組織の特色[0101b, 0101c]に応じて定められており、教育組織の特色を反映したものとなっている。
0101 (3) 育成する人間像は、教育研究上の目的[0101a]ならびに各学科/専攻の特色[0101c]において明確になっている。
0101 (4) 教育研究上の目的[0101a]は大学の基本理念・使命・教育目的[0101d]を前提としており、関連性をもっている。
0102 (1) 教育研究上の目的や人間像は学生便覧[0102a]や学部パンフレット[0102b]、学部ホームページ

[0101b, 0101c]で明示されており、記述は概ね同じ内容を記しているが、若干の齟齬が認められる。	
0102 (2)構成員には既に学部パンフレットを配布して周知している。社会に対しては、上記の学部パンフレットや学部ホームページに加えて、大学入学案内[0102c]や受験産業の教育情報サイト[0102d, 0102e]にも公表されている。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0102	特になし
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0102	学生便覧[0102a]や学部パンフレット[0102b]、学部ホームページ[0101b, 0101c]における教育研究上の目的や人間像の記述に認められる齟齬を解消する必要がある。大学入学案内[0102c]や受験産業の教育情報サイト[0102d, 0102e]についても同様に対処する必要がある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0102	2018年度の自己点検・評価で学部パンフレットやホームページでの記述を検討することを課題にあげ、検討を実施した。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0102	齟齬を解消することを目標として、更に多くの媒体の記述を網羅して必要な記述の修正を実施するとともに、齟齬が生じるのを防ぐ体制を確立する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学 情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>教育研究上の目的 応用生物学部 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_biology/	○
0101	b	中部大学 ホーム>学部・学科>応用生物学部 https://adm.chubu.ac.jp/academics/biology/	○
0101	c	中部大学 ホーム>学部・学科>応用生物学部>各学科・各専攻 https://adm.chubu.ac.jp/academics/biology/biochemistry.html https://adm.chubu.ac.jp/academics/biology/environment.html https://adm.chubu.ac.jp/academics/biology/food_nutrition.html https://adm.chubu.ac.jp/academics/biology/health_nutrition.html	○
0101	d	中部大学 情報公表 ホーム>大学概要 > 基本理念・使命・教育目的 https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/	○
0102	a	学生便覧 2019 p.207, 215, 223 学生便覧抜粋.pdf	○
0102	b	学部パンフレット https://www2.chubu.ac.jp/digibook/biology/html5.html#page=1 p.6~7	○
0102	c	中部大学 入学案内 2019 https://www.dnc.ac.jp/albums/abm00034553.pdf p.50-52	○
0102	d	スタディサプリ 進路 (大学・専門学校) > 大学・短大を探す > 私立大学 > 愛知 > 中部大	○

0102	d	スタディサプリ 進路 (大学・専門学校) >大学・短大を探す>私立大学>愛知>中部大学>募集学部・学科・コース一覧>応用生物学部 https://shingakunet.com/gakko/SC000411/gakubugakka/00000000000138779/	○
0102	e	マナビジョン ホーム>大学情報>中部大学>中部大学の学部・学科 https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/school/3534/gakubu/gakubudt/74.html	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203	応用生物学部では 2017 年度の自己点検・評価で当該項目の評価を C とし、改善の必要性を認識していた [0203a]。しかし、2017 年度の自己点検・評価からピアレビューという学内外部評価を受けることとなるので、自動的に内部質保証システムが構築されることになることもあり、基準 2 に関してピアレビューでは特に指摘を受けなかった [0203b]。ゆえに、本学の自己点検・評価のシステムに従う以外に特に改善に着手することはなかった。翌年の 2018 年度の自己点検評価では基準 2 が自己点検・評価項目になく、ピアレビューを受ける年度でもなかったため、引き続き基準 2 に関しては特に改善をしていなかった [0203c]。しかしその後、基準 2 に関する全学的課題として『学部・研究科等における内部質保証体制の充実』が挙げられたため [0203d]、応用生物学部では内部質保証システムを今後継続して有効なものとするために、年間スケジュールを決め、システムティックに運営できる体制を整えた [0203e]。
長所・特色 <簡条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0203	学部内における内部質保証システムを今後継続して有効なものとするために、年間スケジュールを決め、システムティックに運営できる体制を整えた [0203e]。
項目 No.	
課題事項 <簡条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	学部内内部質保証システムにおける年間スケジュールの実践 [0203e]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0203	2019 年度、学部内の内部質保証システムにおける年間スケジュールを設定し、現在そのスケジュールに従って実践をしている最中である[0203e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0203	学部内の内部質保証システムにおける年間スケジュールを実践し、計画に無理がないかを検証する[0203e]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	2018 年度応用生物学部自己点検・評価シート https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/self_evaluation/college_biology.pdf#page=1 p.3-4	○
0203	b	2018 年度応用生物学部ピアレビュー報告書 https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/peer_review/college_biology.pdf#page=1 p.2	○
0203	c	2019 年度応用生物学部自己点検・評価シート https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/faculty_staff/internal_auditing/2018/inside/college_biology_1-11.pdf#page=1	○
0203	d	2019 年度自己点検・評価全学的課題 https://www3.chubu.ac.jp/documents/facts_figures/content/13286/13286_9b197f4b8d22a96d8210bff1f0008900.pdf#page=1	○
0203	e	2019 年度第 9 回 応用生物学部教授会、第 11 回応用生物学研究科委員会資料 p.8	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	A
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401 各学科・専攻会議で検討した DP、CP について学部長、副学部長および各学科・専攻主任により構成される主任会にて学部内整合性等を更に検討し、その結果を学部教授会で審議し、教員の賛同を得た上で大学協議会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討して最終決定している。最終案について再度学部教授会で確認して大学ホームページに公開している[0401a]。	
0403 各教員が毎年度初頭に「教員活動重点目標・自己評価シート」を提出して当該年度の重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検する。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これも学部長・学長が点検する[0403b][0403c]。	
0403 2019 年度の自己点検・評価の結果を受けて大学から提案された全学的課題の 1 つに『シラバスと講義内容との整合性の検証』というものがあつた[0403e]。ゆえに、学部教務委員会において『学生による授業評価アンケート』の関連結果を授業ごとに調査した。その結果、著しく評価の低い授業が 2 つあることが判明したため、学部長や学部教務委員によるヒアリングを行い、担当教員と共に対策を議論した[0403f]。	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0403	「教員活動重点目標・自己評価シート」により自己目標の設定や自己評価をおこなっている[0403b]。
項目 No. 0403	教育活動顕彰制度を設けており、教員間のみならず学生からの評価も含めている[0403c]。
項目 No. 0403	学生による授業アンケートをおこない、集計結果を各教員に提示すると共に学生からの意見に対する教員からの返答を公開している[0403d]。
項目 No. 0403	2019年度の自己点検・評価の結果を受けて大学から提案された全学的課題の 1 つに『シラバスと講義内容との整合性の検証』というものがあつた[0403e]。ゆえに、学部教務委員会において『学生による授業評価アンケート』の関連結果を授業ごとに調査した。その結果、著しく評価の低い授業が 2 つあることが判明したため、学部長や学部教務委員によるヒアリングを行い、担当教員と共に対策を議論した[0403f]。
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	学生による授業アンケートにおいて、必ずしも 100%の回答が得られていない[0403d]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0403 授業中において学生に科目担当教員が授業アンケートへの参加を呼びかけ、携帯電話やスマートフォン等による Cumoc を利用したアンケート回答を求めた[0403d]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0403	学生の授業アンケートを促す効果的な方法を検討する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0401	a	中部大学ホーム> 情報公表ホーム>学びで見る中部大学>学部・学科の情報>3つのポリシー 応用生物学部 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/ >応用生物化学科 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biochemistry/ >環境生物科学科 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_environment/ >食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_food_nutrition/ >食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_health_nutrition/	○
0403	a	科目ナンバリング表 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/kamoku_no_2019.pdf	△
0403	b	「教員活動重点目標・自己評価シート」様式、記入上の注意	○
0403	c	2019年度教育活動顕彰制度 冊子	△
0403	d	中部大学ホーム>TORA-NET バナーよりログイン、リンクメニューより授業評価ページへログイン	△
0403	e	中部大学 情報公表 ホーム > 中部大学の評価 > 中部大学の自己点検・評価 >2019年度 (対象年度：2017～2018年度) 自己点検・評価の結果について2019年度 自己点検・評価 全学的課題 https://www3.chubu.ac.jp/documents/facts_figures/content/13286/13286_9b197f4b8d22a96d8210bff1f0008900.pdf#page=1	○
0403	f	応用生物学部教務委員会議事録 (2020年3月25日開催分)	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学部

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	A
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・ 研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404	各学科・専攻において教務委員を選出し、各学科・専攻からのシラバス[0404a]を初めとする教務事項について検討された結果を持ち寄って学部教務委員会を概ね毎月開催している [0404c]。
0404	各学部等から提出された教務事項、および教務部から各学部等に依頼した事項については、概ね毎月開催され、学部代表者が出席する教務委員会[0404b]で検討されている。
0405	成績評価基準、卒業要件はHPで公開されている[0405a] [0405b]。
0405	2019年度の自己点検・評価の結果を受けて大学から全学的課題として『成績評価および単位認定方法の客観性・公平性・厳格性の担保の検討』をするよう指示があった[0405c]。これらの点においてはシラバス記載の方法で各教員が適切に行っていると判断しているが、同一学科、同一科目で複数の教員が担当している科目において、教員によって評価基準が異なる可能性が懸念されたため、できるだけそのような科目が生じないように教員の担当を変えたり、教員相互に密に連絡を取り合うよう依頼することで対処した[0405d]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0404	学部教務委員会を概ね毎月開催している [0404c]。
項目 No.0404	全学教務委員会が概ね毎月開催されている [0404b]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0405	成績評価および単位認定方法の客観性・公平性・厳格性の評価方法の検討
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0404	授業内容向上のため、例年担当者以外の第三者によるシラバス点検をおこなっている。 [0404d] [0404e]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0405	成績評価および単位認定方法の客観性・公平性・厳格性の評価方法の検討

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	中部大学ホーム>情報公開ホーム>学びでみる中部大学>授業計画（シラバス）>トラネット https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/top.do	△
0404	b	中部大学教務委員会規程 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=search	○
0404	c	応用生物学部教務委員会議事録	△
0404	d	中部大学におけるシラバスの第三者点検実施要綱	○
0404	e	応用生物学部におけるシラバス第三者点検	○
0405	a	中部大学ホーム>情報公開ホーム>学びでみる中部大学>成績評価の基準 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/	△
0405	b	中部大学ホーム>情報公開ホーム>学びでみる中部大学>卒業要件・修了要件・学位論文審査基準 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/credits/	△
0405	c	中部大学ホーム>情報公開ホーム>中部大学の評価>中部大学の自己点検・評価>2019年度（対象年度：2017～2018年度）自己点検・評価の結果について 2019年度 自己点検・評価 全学的課題 https://www3.chubu.ac.jp/documents/facts_figures/content/13286/13286_9b197f4b8d22a96d8210bff1f0008900.pdf#page=1	△
0405	d	応用生物学部教務委員会議事録（2019年9月25日開催）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	B
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 (1) Grade Point Average (GPA) 制度を導入し、学習成果の指標に利用している [0406 a]。さらに、ルーブリックなどの学習成果の測定方法が個々の教員レベルで活用されている。
0406 (2) 試験放棄等については学科で、進級などの実績については学部で把握しているが成績分布は教員レベルに留まっている。
0406 (3) 主にアセスメント・テストを使用しており、一部がルーブリックを活用している。学習成果の把握と評価

は教員レベルに留まっており、組織的な評価には至っていない。	
0407 (1) 教務支援課等から提供される資料に基づいて教員レベルでの自己点検・評価を実施しているが、組織としての自己点検・評価には至っていない。	
0407 (2) 組織としての自己点検・評価に至っておらず、年度重点目標は設定していない。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0406	Grade Point Average (GPA) 制度の導入
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0406	学部・学科として組織的な学習成果の把握と評価を実施していない。
項目 No.0407	学部・学科として組織的にエビデンスに基づく学習成果の点検・評価を行っていない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0406	学習成果の測定について改善（ルーブリックの導入等）を検討している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No.0406	組織的な学習成果の把握と評価を実施する手順と実施計画を検討し、実施計画を進める。
No.0407	学習成果の根拠資料に基づく点検・評価を実施する手順と実施計画を検討し、適切な年度重点目標を設定する体制を構築する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
No.0406	a	学生便覧（GPA 制度について）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	<p>(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 	A
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	<p>(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証 	A
		<p>(2) 自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度重点目標の設定 	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>
<p>0501 (1) APはDP及びCPを踏まえており、その旨がAPに明記されている(0501a)。</p> <p>0501 (2) 入試要項(0501b)には学部・学科のAPのアドレスが示されているのみで齟齬はない(0501b)。</p> <p>0501 (3) APは大学ホームページの学部・学科の情報(0501c)から容易にアクセスできるように公表しており、民間の受験サイトでも齟齬なく紹介されている(0501d)。</p> <p>0501 (4) 入学前の学習歴や学力等及び求める水準を含んだ記述となっており、更に各学科・専攻のAPでは求める人間像の水準等に対応する入試選抜方法を明示している(0502a)。</p> <p>0502 (1) 各学科・専攻のAPでは求める人間像を規定する水準等に整合する入試選抜方法を明示した(0502a)。</p> <p>0502 (2) 教育課程の編成・実施の方針(CP)を踏まえてAPが定めら、前項に記したようにAPで学生募集・入学者選抜方法への対応づけがされており、学生募集・入学者選抜方法とCPは連関を確保されている。また、受験生サイトにて選抜試験ごとの募集人員、志願者数、受験者数、合格者数、倍率等を公表して透明性を確保している(0502b)。</p> <p>0502 (3) 全学の入試選抜委員会は学長や入学センター長及び各学部長を主体に組織され、大学事務の入学センターと連携しつつ全学的な責任を負う。その下に学部や学科・専攻レベルの入試業務に責任を負う学部の入試委員会が学部長や各学科・専攻の主任を主体として組織されており、入試選抜の実施体制は適切に整備されている。</p> <p>0502 (4) (5) 入試作問委員を固定せず、試験後は受験者氏名等を伏したまま採点と合格者選考を実施し、総合点上位からの選抜に徹しており、公正かつ公平な入学者選抜に努めている。</p> <p>0503 (1) 2019年度の学士課程における入学定員に対する入学者数比率は学部全体で99%(学科ごとで90~106%)とほぼ定員を満たしている(0503a)。編入学定員に対する編入学生数比率は学部全体で33%(学科ごとで0~50%)であるが、編入学生定員は全体の1.6%に過ぎず問題とはならない(0503a)。収容定員に対する在籍学生数比率は学部全体で103%(学科ごとで94~110%)とほぼ定員であり(0503b)、入学及び収容定員は適切に設定され、在籍学生数も適切に管理されており、特段の対応を必要としていない。</p> <p>0504 (1) 学生募集や入学者選抜方法は大学の入学センターが過去の結果(入試成績や出身校と入学後の成績等との相関や受験者動向)を毎年分析して決定し、学部委員会では検証してないが適切性は確保されている。</p>

0504 (2) 学生募集および入学者選抜方法は入学センターが担当するため、学部委員会の担当は個々の入試ごとの合否ラインや出身校に応じた内申書の評価基準にかかわる検証と改善・向上になるが、検証を定期的には実施しておらず、改善・向上にかかわる年度重点目標を設定するに至っていない。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0503	きめ細かな指導により退学を予防することで収容定員に対する在籍学生数比率はほぼ定員通りである。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0504	学部の入学選抜委員会における入学者選抜にかかわる定期的な検証と年度重点目標を設定した改善・向上を実施できる体制の整備。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0502	(1) 各学科・専攻の AP では求める人間像の水準等に対応する入試選抜方法を明示した。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0504	学部の入学選抜委員会における入学者選抜にかかわる定期的な検証を実施する項目の検討と検証実施体制の整備、及び年度重点目標を設定した改善・向上を実施できる体制の検討。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>3つのポリシー>3つのポリシー応用生物学部 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/	○
0501	b	2019年度入学試験要項 2ページ https://adm.chubu.ac.jp/news/2019yoko.pdf	○
0501	c	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>学部・学科の情報 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/undergraduate_list/	○
0501	d	ベネッセ・マナビジョン：ホーム>大学情報>中部大学>中部大学の学部・学科 https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/school/3534/gakubu/gakubudt/74.html	○
0502	a	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>3つのポリシー>3つのポリシー 各学科・専攻 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biochemistry/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_environment/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_food_nutrition/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_health_nutrition/	○
0502	b	ホーム>入試情報>入試結果 https://adm.chubu.ac.jp/entrance_exams/result/	○
0503	a	入学者数 [2019年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-01.pdf#page=1	○

0503	b	在籍者数 (学部) [2019年度] https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-02.pdf#page=1	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度： 2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	A
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	B
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602	(1)各学科が法定定員の130%を超える専任教員を擁しており(0602a)、教員当たりの学生数は27~40人(0602b)で教育研究活動を実施するのに十分な専任教員数を確保している。
0602	(2)専門分野や知識に応じて教員を授業科目に配置しているが、科目担当時間数において専任教員が担当する割合は、各学科ともに8割を超えている。必修科目121の内、非常勤講師のみの担当は3に留まり、専任教員を適性に配置している(0602c, 0602d)。女性が33%を占め、年齢構成は65歳超がやや突出しているが40歳~64歳が十数%で並び、バランスが取れている(0602e, 0602f)。外国人教員は2名(4%)である。
0602	(3)教養教育は人間力創成総合教育センターによる全学的な運営体制が整っている。その一部となる「スタートアップセミナー」や「生物と環境」、「持続学のすすめ」などに学部教員が主体的にかかわっている(0602g)。
0603	(1)昇格については学部の規程(0603a)があるが、募集・採用に関する規定はない。募集・採用・昇格等の教員人事は、学部の発議を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た後に募集し、候補者を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た上で、学長らを含む面接を経て採用する手続きとなっている。
0603	(2)昇任については上記規程に従い、教員人事は全て上記手続きを経て実施している。
0604	(1)全学FD委員会の下に、学部FD委員会を設置して組織的にFD活動を実施している(0604a)。
0604	(2)FD活動評価点検は学部FD活動ワーキンググループが実施して学部FD委員会が承認し、報告書を全学FD委員会に提出している。前年度の評価点検に基づいた年度重点目標を設定して全学FD委員会に提出している。(0604b)。
0605	(1)教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなる教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。
0605	(2)目標設定をした組織的な改善・向上には至っていない。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	教養教育にも学部教員が主体的にかかわっている。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0603	募集・採用に関する学部内での規定・手続きを検討する。
項目 No. 0605	教員組織の適切性について定期的な自己点検・評価を実施する体制を確立し、適切性を評価できる根拠資料を整備する。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果【留意点】等への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
2018年度の自己点検・評価で募集・採用に関する規定を学部で検討し、明確化するという改善計画を立てたが、学部として明確に打ち出せる段階には至っていない。各学科では検討されているので、引き続き取り組んでゆきたい。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0603	募集・採用に関する学部内での規定・手続きを検討し、整備する。

0605	教員組織の適切性について定期的な自己点検・評価を実施する体制を確立する。
------	--------------------------------------

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	情報公表 ホーム>データでみる中部大学 [2019年度] >法定員と教員組織 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2019/1-05.pdf#page=1	○
0602	b	情報公表 ホーム>データでみる中部大学 [2019年度] >教員当たりの学生数 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-07.pdf#page=1	○
0602	c	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>学部・学科の情報>授業科目 (学生便覧抜粋) https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum/2019/51fr.pdf#page=1 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum/2019/51fs.pdf#page=1 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum/2019/53ft1.pdf#page=1 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/curriculum/2019/54ft2.pdf#page=1	○
0602	d	情報公表 ホーム>データでみる中部大学>専任教員と非常勤教員の担当時間数 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/5-02.pdf#page=1	○
0602	e	情報公表 ホーム>データでみる中部大学 [2019年度] >教員数 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-06.pdf#page=1	○
0602	f	教員年齢構成 2019. pdf	○
0602	g	人間力創成総合教育センター ホーム https://www3.chubu.ac.jp/global_education/	○
0603	a	昇任規程	△
0604	a	2018年度 FD 活動評価点検報告書 1 ページ https://www3.chubu.ac.jp/documents/university_education/content/3321/3321_f54168cff912799d706e14a87d36dc66.pdf	○
0604	b	同上 4~5 ページ	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準7 学生支援

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	S
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援	S
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施	S
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	S
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0702 多様な学生への対応、キャリア支援や生活基盤整備に関して、大学全体の方針に基づきつつ、本学部独自の視点も活かしながら適切な学生支援活動を展開している[0702 a]。	
0702 正課外教育として、化学の補習講義を実施している[0702 b]。	
0702 就職活動支援に関して、学部の専門分野に関係する業界の研究会を実施している[0702 c] [0702 d]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	多様な学生への対応を含め、本学部独自の学生支援活動を行っている[0702 a] [0702 c][0702 d]。
項目 No. 0702	正課外教育として、化学の補習講義を実施している [0702 b]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	就職活動が盛んな時期には、キャリア支援課によるエントリーシートの指導を受けることが困難である。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
現在、正課教育の一環として全学的に実施しているインターンシップに対して、本学部の特徴や視点を新たに盛り込むことによって、当該制度のより一層の充実をはかる。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	多様な学生を支援できるよう、人員配置を含め体制を強化する。
0702	就職活動支援に関して、学部独自の説明会や研修をさらに充実させる。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	多様な学生支援、就職支援に関する資料（応用生物学部パンフレット）	○
0702	b	化学の補習授業（正課外教育）実施に関する教授会資料	○
0702	c	学部の専門に関係の深い企業への就職活動支援に関する資料（ペストコントロール協会）	○
0702	d	学部の専門に関係の深い企業への就職活動支援に関する資料（企業現場教育）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0802 学部・研究科の研究活動推進にかかる教育研究等環境整備については、教育課程の特徴、学生数、教育方法に対応する学部等重点計画[0802a]策定にあたり、共通機器委員会[0806a]、学生実験委員会[0806b]、先端教育環境整備充実事業運営委員会[0806c]等と協議し、中期予算計画[0802b]により、年次ごとに具体的な整備計画を立案している。修了院生や退職教員による空きスペースなど学部管轄エリアの有効活用を推進するため、主任会[0806d]の常置委員会として設置された学部スペース検討WG[0806e]により、調査、立案している。	
0806 上記計画は主任会・教授会[0806f] [0806g]に諮り計画の適切性を検証し、自己点検を行っている。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0802	学部生・院生共用研究機器室の整備を進めた。
項目 No. 0802	食品プラントに官能検査室を整備した。
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0806	学部管轄エリアにおける利用度の低いスペースの調査と効率的な再配分への取り組み

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0806	2017 年度の自己点検・評価において、ピアレビュー報告書に先端教育環境整備充実事業の主担当者転出による業務管理体制の不備を指摘されたため、速やかに同委員会の規程・委員名簿を整備し、是正した。[0806c]
0802	応用生物学部先端教育環境整備充実事業運営委員会において、学部生・院生共用研究機器室および官能検査室の整備計画を立案した[0806h]。
0806	学部管轄エリアの有効活用の調査、配分案立案にかかり、主任会の常置委員会として学部スペース検討 WG を設置した[0806e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0806	学部内における利用度の低いスペースの調査と効率的な再配分への取り組み
0802	大学に対するスペース拡大の要望

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	学部等重点事業計画（2018、2019）	○
0802	b	中期予算計画調査票（2018、2019）	○
0806	a	共通機器委員会規程	○
0806	b	学生実験委員会規程	○
0806	c	先端教育環境整備充実事業運営委員会規程	○
0806	d	主任会運営申し合わせ	○
0806	e	2019 年度第 6 回教授会議事録（抄）	○
0806	f	2019 年度第 10 回主任会議事録（抄）	○
0806	g	2019 年度第 9 回・10 回教授会議事録（抄）	○
0806	h	先端教育環境整備充実事業運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
<p>応用生物学部では、地域社会と連携して様々な社会貢献を行ってきた。その一つとして、本学部環境生物科学科を中心に岐阜県恵那市の本学研修センターを拠点として、土岐川・庄内川流域市民や源流域の行政、NPO 団体と協働して運営し、森の健康診断を実施している[0902a]。2019 年には、「新・森の健康診断」を開催し、里のイノシシ問題解決に向けて～豚コレラ（CSF）とどう向き合うか～をテーマに開催され、上流域の森林や里の状態が獣害とどのように関係しているかが検討された[0902b]。本活動は、文部科学省 COC 事業の一環として位置づけられ、2月に開催された学内評価委員会、学外評価委員会および COC 学内委員会にて審議され、本学認定資格の「地域創成メディアーター」育成および地域志向研究として地域活性化と学生教育に高く貢献していると評価されている[0902c]。また、愛知県ペストコントロール協会と連携協定を締結し[0902d]、学生への業界紹介および業界の人材育成を目的として「第1回ペストコントロールカレッジ」を11月8日に開催した。その取り組みが業界機関誌に取り上げられ[0902e]、第2回、第3回と回を重ね[0902f-h]、今後の社会貢献が期待される。さらに、春日井市内ではサボテンを活用した地域活性化活動「春日井サボテンプロジェクト」[0902i]が実施されており、本学部の教員、春日井商工会議所職員、市内事業者らが参加している。活動内容の検証は定期的に行われ、今後のプロジェクトの方向性とこれまでの活動の自己点検を目的とした市民参加型のシンポジウムを開催した[0902j-k]。また、中部大学のチャレンジサイトプロジェクトに採択され、サボテン料理の開発にも乗り出している[0902l-m]。地域交流として、春日井市健康救急フェスティバルに継続的に参加して、地域住民の食を通じた健康チェックに貢献している[0902n]。他には、日本食品衛生学会東海・北陸ブロックと共催して、本学の学生に食品関連産業における『リスク予防管理』の教育を行うことを目的として『日本食品衛生学会東海北陸ブロック公開講演会』を開催し、食品衛生の情報の提供などを行っている。これは、本学認定資格「リスク予防管理士」の取得セミナーとして位置づけ評価している[0902o-q]。</p>	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0902	恵那地域および流域市民との協働体制が継続的に維持された、地域に求められた活動である[0902a-c]。
項目 No.0902	森の健康診断では、市民の啓発にとどまらず、文科省 COC 事業として認められ、地域との学生の

	共育がなされている[0902-c]。
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No.0902	ペストコントロールは始まったばかりで、今後持続性と発展性を更に模索してゆくべきである[0902d-h]。
項目 No.0902	春日井市健康救急フェスティバルへの参加により得られる市民の反応をまとめ公開していくべきである[0902n]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
オープンキャンパスや高校での模擬講義などの機会に、チラシ等を準備して説明している。	
学部ホームページなどでの Web 上でのアピールも検討している。	
対象年度はプロジェクトの活動状況を検討する定期的な会議に加え、より多くの意見を集めプロジェクトの自己点検に活用するため市民参加型のシンポジウムを開催した[0902i-k]。本シンポジウムには約130人が参加し、プロジェクトの改善に向け一定の効果が得られた。しかし本プロジェクトは地域活性化活動であることから、今後はより多くの市民の意見を恒常的に取り込む仕組みを導入していく必要がある。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	対外的な説明頻度を高める。
0902	学部ホームページなどを通じた Web 上でのアピールや報告を検討する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	中部大学チャレンジ・サイト post 森の健康診断 https://www3.chubu.ac.jp/challenge.site/project2015/06/	○
0902	b	新・森の健康診断の開催	○
0902	c	H29 地域志向_評価結果	○
0902	d	日本ペストコントロール協会 Pest Control	○
0902	e	愛知県ペストコントロール協会 Pest Control News	○
0902	f	第2回ペストコントロールカレッジ開催	○
0902	g	第2回ペストコントロールカレッジ開催チラシ	○
0902	h	第3回ペストコントロールカレッジ開催	○
0902	i	春日井サボテンプロジェクト HP http://www.kcci.or.jp/saboten-pj/	○
0902	j	春日井サボテンサミット 新聞記事	○
0902	k	春日井サボテンサミット 実績報告書	○
0902	l	2019 年度チャレンジサイト採択プロジェクト	○
0902	m	サボテン料理の開発プロジェクトチラシ	○
0902	n	春日井市健康救急フェスティバル	○
0902	o	日本食品衛生学会 HP ブロック情報 日本食品衛生学会 HP http://shokuhineisei.or.jp/event/district	○
0902	p	中部大学応用生物学部 HP 第2回日本食品衛生学会東海北陸ブロック公開講演会のお知らせ	○

		中部大学応用生物学部 HP https://www3.chubu.ac.jp/biology/news/23483/	
0902	q	第2回日本食品衛生学会東海北陸ブロック公開講演会チラシ	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	教授会は規程に基づき、議長の承認を受けて開催通知し、議事録は事務局で作成し議長の決裁を経て本部へ提出している[1120a] [1120c] [1120d]。
1120	議事はあらかじめ同規程に位置づけられた主任会において、申し合わせ [1120b] に基づき事前協議を行っている。主任会には常置委員会（学部教務委員会・共通機器委員会・学生実験委員会・学部選抜委員会）を規定し、固有事項の処理及び主任会より付託された事項を審議し、主要な内容は主任会へ報告・承認を得る[1120b]。
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	議事資料は投影により紙の節減を図っている。またあらかじめ構成員にメール送付し、データをダウンロードしたPC等を持ち込み、議場において手元で確認することができる[1120a]。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	必要な常置委員会の設置[1120b]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	常置専門委員会の運営規定整備を行った[1120b]。
1120	学部スペース配分の透明性確保のため主任会に学部スペースWGを設置した[1120b]。

--

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	なし

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学応用生物学部教授会規程	○
1120	b	応用生物学部・研究科主任会申し合わせ	○
1120	c	教授会議事録	△
1120	d	決裁文書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 特	学長重点項目
------	--------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
特01	標準修業年限卒業率や退学率等を把握し、教育課程・教育方法の改善を行っていますか。	(1) 標準修業年限卒業率や退学率等の最近の傾向を把握・分析し、共有していますか。	A
		(2) 標準修業年限卒業率や退学率等の改善に向けた目標を設定していますか。	B
		(3) 設定目標に向け、DP に沿う教育課程・教育方法の対策・改善の取り組みを行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
特01	(1) 標準修業年限卒業率や退学率等は年度ごとに確認し、傾向と分析結果を組織内で共有している。
特01	(2) 標準修業年限卒業率では全学平均を10%前後上回っており、退学率等では5%前後下回って推移してきたため問題化せず、目標設定するに至っていない[特01a][特01b]。
特01	(3) 上記の経緯から、教育課程・教育方法の対策・改善の取り組みには至っていない。一方で、休学中あるいは休学する学生や退学の懸念がある学生については組織内で共有しつつ、指導教員等が個別にアプローチして退学を防ぐ取り組みを実施している。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 特01	休学や退学等の学生の異動については、個々のケースにおける異動に至った事情と担当教員の対応を学科会議ならびに学部教授会で報告して共有し、適切な対応を確認している。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 特01	標準修業年限卒業率や退学率等の分析結果の共有継続。 問題化する懸念が生じた場合に目標を設定し、必要な教育課程・教育方法の対策・改善に取り組む備え。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない 該当なし
--

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
特 01	学部教務委員会において標準修業年限卒業率や退学率等の分析結果を今後も共有し、教育課程・教育方法の対策・改善が必要となる状況を事前に把握できるようにする。目標として現在のレベル（標準修業年限卒業率 85～90%、退学率 5～10%）を維持することを目指す。また、教育課程・教育方法の対策・改善が必要となる状況への対応を検討する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
特 01	a	データでみる中部大学 [2018 年度] > 入学生の卒業等の状況 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2018/3-03.pdf#page=1	○
特 01	b	標準修業年限卒業率や退学率等の最近の傾向 (応用生物学部)	○
			○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管